



研究会・研修会等への

報告者・講師の派遣

(平成十一年十一月～十二月)

○恵庭RBパークセミナー・講演

主催 恵庭リサーチ・ビジネス

パーク(株)

とき 平成11年11月17日

テーマ 「北海道農業は試されている」

～

講演者 北倉 公彦(当研究所・研

究参与)

○第三回北農コンサルタント登録

者の集い・研修

主催 (財)北農会・農業技術コ

ンサルティングセンター

とき 平成11年11月17日

テーマ 「遺伝子組み換え食品を巡る諸問題」

講演者 大澤 勝次(農林水産省北

海道農業試験場・地域基

盤研究部長)

○石狩中部地区農業改良推進会

議・研修

主催 石狩中部地区農業改良普

及センター

とき 平成11年12月15日

テーマ 「雇用型農業の組み立て

と実践方法」について

一野菜・花きの振興方策

の樹立と実践の一環とし

て

講演者 富田 義昭(当研究所・研

究顧問)

お知らせ

当研究所において、最近の研究成
果として出版に関わった著書、およ
び、関係者が執筆分担した資料を次
のとおり紹介します。

希望の方は購入又は申込み先を
それぞれ示したので求めて下さい。

◎北海道の農地問題

北海道地域農業研究所・学術叢書

②として、谷本一志(北海道東海大

学国際文化学部教授)、坂下明彦(北

海道大学大学院農学研究科助教授)

阿氏の編著により、筑波書房から平

成十一年十一月発刊されました。

当研究所では、創立以来、自主研
究の一環として「農業構造問題研究

会」を立ち上げましたが、平成四年

に研究会で到達した「高齢化が進展

する中で、農業の担い手の確保が困

難な状況を迎え、農地余りの現象が

見られ、そのまま放置すると北海道

農業にとって由々しき問題である

う」との結論に達しました。

そのため、平成五年に研究者と行

政・農業団体が構成する「農地問題

研究会」を組織し、当初二カ年で一

定の方向を見出すべく、北海道の農

地問題」の調査研究に取り組みまし

た。稲作地帯三カ所、畑作地帯三カ

所、酪農地帯三カ所の市町村、それ

に中山間地帯一カ所を加え計一

〇カ所の市町村にのぼる調査を実

施しました。しかし、農地問題は奥

が深く短い期間では簡単に結論が
出せない中で、遂に五カ年の歳月を
経て、このほど取りまとめることが
できました。

時あたかも、平成十年、新しい基
本法制定のため政府の中に「食料・
農業・農村基本問題調査会」が設け
られ、その検討の中で「株式会社
の農地取得」に集中する形で、農地問
題が取り上げられ、将来の日本農業
のあり方に関わる重要な問題が提
起されました。この問題に関しては、
研究会として政策提言を行いまし
たが、当研究所機関誌「地域と農業」
第三十一号(平成十年十月)秋季
号の特集として、研究成果を政策
提言の形で掲載するなど活かして
おります。

「食料・農業・農村基本法」が制定
され、新しい政策展開のなかで、農
地問題は、緊急の課題であり、それ
ぞれの地域で対応に端緒を見つけ
出し、具体的な対策について模索を
していると思われまます。現状を分析
し、問題解決にこの文献が少しでも
役に立つと考えられます。

この研究会には多くの方々のご

協力を得ておりますが、執筆者は谷本・坂下両氏の他に六名の研究者が分担しております。また、当研究所は今年創立一〇周年を迎えますが、それを記念しての出版として位置づけしております。

したがって、当研究所会員に対しましては、一冊ずつ一月下旬～二月上旬に機関誌「地域と農業」三十六号(冬号)と一緒に配付いたします。他に必要な方については次により求めて下さい。

○書籍名 北海道の農地問題

北海道地域農業研究所

学術叢書 ②

谷本一志・坂下明彦

編著

○体裁 A五版 三三五頁横書

○発行所 筑波書房

東京都新宿区神楽坂

2-19 銀鈴会館ビル

電話〇三(三三二六七)

八五九九

○定価 四、〇〇〇円＋税

書店で購入する場合がございます。

◎馬鈴しょでん粉

——特性とその利用——

全国農業協同組合連合会(JA全農)では、馬鈴しょでん粉の問題、ユーザー向けに対し、特性やその利用についての基礎的知識や情報の提供のため、このほどPR冊子を作成し、消費拡大などに繋げたいとして関係者に配付しております。

この冊子は、これまで幾度となく作られ、平成八年度大幅に改定しているのですが、大変好評で在庫が無くなったこと、時代の変化に対応する最新情報などを提供するため、リニューアルしたものです。

北海道農業において、馬鈴しょは畑作物の輪作体系上重要な作物であり、その五〇%のものがでん粉原料に向けられており、でん粉の需要の拡大と安定的な流通は重要であり、国際化、自由化のなかで今後の方向が、馬鈴しょ全体に関わる最大の関心事として注目されています。

馬鈴しょでん粉には、他のでん粉にみられない優れた特性があり、多様な用途に利用されていますが、そ

れを明らかにするとともに、その利用面の解説を行ない、今後、馬鈴しょでん粉の需要拡大ならびに新規用途の開発を推進する上での資料として利用が期待されています。

内容については、①馬鈴しょでん粉の現状と課題、②各種のでん粉と比べた馬鈴しょでん粉の特性、③馬鈴しょでん粉の用途別利用状況(めん類の分野・水産練製品分野・菓子の分野・化工でん粉の分野)④馬鈴しょの生産・流通とでん粉の製造についてなどの他に、付属資料などで構成されており、それぞれ専門的な立場で執筆されています。

④については、「北海道農業と馬鈴しょの生産・流通」と題して、当研究所の富田義昭研究顧問が分担執筆しました。また、「馬鈴しょでん粉の製造と品質管理」について、ホクレンでん粉課押野見良司考査役が執筆しました。

このように、馬鈴しょの生産、流通・消費、でん粉製造、その利用特性、用途別利用の実態について、一貫した資料は数少なく、北海道農業の生産現場にとっても参考になると

思われます。

この冊子は、でん粉取扱の問題、ユーザーなどへの限定配付ではありませんが、希望者は次のとおり申し込みと提供の便宜を計ります。

○冊子名 馬鈴しょでん粉

——特性とその利用——

○体裁 B五版 九八頁

○発行 全国農業協同組合連合会

○申込方法

無償配布しますが、送料のみ負担して下さい。

返信用封筒(A四)が入る大きさに、一冊分の送料

一七〇円の切手を貼り、

郵送で申し込みください。

(社)北海道地域農業研究所

〒〇六〇一〇〇〇七

札幌市中央区北四条西

七丁目

JA厚生連別館五階

電話 〇二(二二八一)

一五六六

なお、電話やFAXでの紹介には

対応しますが、申し込みの受付は

できません。



DATA FILE

関連事項/DATA

北海道農業開発公社

〒 060-0005
札幌市中央区北 5 条西 6 丁目
☎ 011(271)2231
農地開発センター内

J A 雄信内

〒 098-3133
天塩郡天塩町オヌブナイ 3761
☎ 01632(4)3311

豊富町

〒 098-4110
天塩郡豊富町字上サロベツ
☎ 0162(82)1001

北海道東海大学

〒 005-0822
札幌市南区南沢 5-1
☎ 011(571)5111

酪農学園大学

〒 069-8501
江別市文教台緑町 582 番地 1
☎ 011(386)1111

J A 大樹町

〒 089-2141
広尾郡大樹町 1 条通 1
☎ 01558(6)3131

大樹町

〒 089-2195
広尾郡大樹町東本通り 33 番地
☎ 01558(6)2111

以前は画期的に生産性を高め、地域の救世主となった品種改良技術がクローンとかターミネーターとか人々に不安を感じさせる技術になってしまっただけではない。

◎平成11年度稲作部門並びに畑作部門研修会の開催案内
平成10年度より新たに会員に対するサービース向上を図るために、各地域に出向き稲作・畑作・酪農の部門別研修会を開催しています。今年度も12月17日に酪農部門研修会を豊富町にて開催いたしました。この後、稲作部門・畑作部門の研修会を次の日程にて、開催致しますので会員多数の方の参加をお待ちしております。

- 1. 部門別・開催地・開催日時
○稲作部門・旭川市
平成12年2月24日(木)
午後13時～17時30分
○畑作部門・札幌市
- 2. 基調講演並びに実践報告
○基調講演
「地域農業振興計画の進め方」
いま、なぜ、地域農業
進行計画が必要なのか
講師 酪農学園大学 吉野宣彦氏
○実践報告
報告者 JAひがしかわ
営農部長 村瀬 慎治氏
美瑛町 農林課々長補佐
高橋 純一氏
- 3. 受講対象者
北海道立中央農業試験場
経営部経営科長 西村 直樹氏
(稲作・畑作) 部門の市町村担当者、
農協の役職員、農試、普及員

編集後記
中国や東南アジアを旅行された方はCDやテープが驚くほど安く売られているのにびっくりされたことがあるのではないかと。いわゆる海賊版と言っつて、著作権を払っていないわけだから、およそテープやCD原盤のコストで出来てしまう。今、種の世界でも同様のことが問題になっている。オーストラリアやニュージーランドでリンゴの「ジョシ」梨の「二十世紀」そして柿まで生産されている。

また、中国では台湾経由で日本の野菜の種が持ち込まれ、漬け物原料用に大量に契約栽培されて、塩蔵品として、また最近では製品になって日本に逆輸出されている。これらの種に関するパテントや、言うところの著作権が守られたという話は聞いたことがない。
和牛の遺伝子もはじめは凍結精液と言う形でアメリカに密かに流出したが、種雄候補として堂々と千歳から飛行機で旅立つ時代になった。
これらに対抗して、せっかく開発した優良品種のパテントを認めあおうと言う保護の国際的な動きがはじまっている。しかしこれが国と国との利害が絡んでなかなか進展していない。
種子メーカーの中には、業を煮やしてF2に繁殖機能を持たせないようにする技術を開発しようとしているところもある。ちょうど馬とロバのF1がラバだがこのラバには生殖能力が無いと言う原理を活用しているらしいが、名前がターミネーターシード。何か人間社会に入り込んでとんでもない破壊行為を行いそうぞ不気味な感じを受ける。